

■日本建築設計学会『論考 建築設計』論文レイアウト [1行空ける]

[2行目] 題名は10ポイントで行の中央に

[3行目] (副題は9ポイントで行の中央に)

[1行空ける] (題名, 副題が2行以上にわたる場合は1行当たり120mm以内とし, 行の中央に)

[英文題名は9ポイント] Design of Nonlinear Self-excited System (Theory)

[1行空ける]

[中央揃えて9ポイント]

設計太郎^{*1}, 製図花子^{*1}, 工学次郎^{*2}

[中央揃えて9ポイント]

Taro Sekkei^{*1}, Hanako Seizu^{*1} and Jiro Kougaku^{*2}

[2行空ける]

In a previous paper, the authors proposed some techniques for the design of nonlinear self-excited systems. In this paper, the applicability of the

(左右均等揃え・ジャスティフィケーション)

英文概要は, 左右のマージンを25mmとする. 途中改行しない. 文字の大きさは10ポイントとし, できればプロポーショナルフォントがよい. 行間は, 15ポイント程度とする. 150英単語程度でまとめる.

[1行空ける]

Key Words : self-excited system, nonlinear system,vibration, simulation

キーワードは, 英文概要の次に, すべて小文字で書く.

[2行空ける]

1. はじめに [ゴシック体]

A 4白紙縦置きで, 上下のマージンは20mm, 左右のマージンは20mm, 縦2段組, 左右の段間は10mm, 1段50行, 1行30文字の設定とする. 本文文字の書体は明朝体, 大きさは8ポイントとする. これらの条件を割付書式設定の基本とする.

章番号および章名は, ただし, 章や節が原稿用紙の最上段(最下段が章名や節名にならないよう)になった場合は, 前の文章と1行空けないで, 第1行目に書く.

1. 1 節名 [ゴシック体]

新しい段落は, このように1コマ空けてから書く. 文章の区切りには, 読点としてカンマを, 句点としてピリオドを用いる(括弧を付して補足説明する場合は, この例のように本文の句読点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後には句読点を付けない).

句読点は, 1コマ分を使用する

数字, 英字や記号などは, 1コマに2字記入してもよい. 文献番号は, ^{1), 2)} または ^{3)~8)} のように上付文字で書く.

2. 図表の書き方

本文と図表の間は, 1行以上空ける. また, 次ページの見本のように, 図番・図名は図の真下中央に配置し, 表名・表番号は表の真上中央に配置する.

図名, 表名は, 英語あるいは日本語で記述する. また, 図番号および表番号はそれぞれ, Fig.1, Table 1 のように通し番号としてゴシック体あるいは強調印字で書く. 本文中で引用するときは, 図1, 表1, ...とする(ゴシック体).

また, 図表はできるだけ下側および右段に寄せて配置するとよい. 図表中の語句(キャプション)はすべて7ポイント以上の大きさで, 図表名の言語に合わせた言語で記述する. 採用言語は統一のこと.

式は, 左端より3コマ以上空けて書き, 式番号は括弧を付して右端に書く. 例えば,

$$a = b s i \alpha + c t \beta \tag{1}$$

のようである. ただし,

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \tag{2}$$

このように, 数式の書体については, 量記号はイタリック体で, 数学記号・単位記号(SI単位系)はローマン体で書く. 分数を書くときは, 式(2)のような表記法を用いる. ただし, 本文中に記述するときは, $b=d(e+f)/(g+h)$ とする.

4. おわりに

以上に述べたように, 原稿執筆において注意すべき事は, 読者が読みやすいように配慮することである. 最後のページの左右の段の上からの長さは, ほぼ同一となるように割り付けること.

Table 1 Table caption

文字の大きさは, 表題は8ポイント, 表中語句は6ポイント以上とする.

[1行以上空ける]

文字の大きさは, 図題は8ポイント, 図中の語句は6ポイント以上とする.

Fig.1 Figure caption

(他の文献から転載したときは図名の直下に, 文献8)から転載, 等と明記すること)

*1 日本建築設計大学工学部(〒XXX-YYYY 新宿区百人町2-22-17)

School of Engineering, Nihon Kenchiku Sekkei University
Email: ****@NKS-u.ac.jp

*2 設計製図(株)設計部(〒XXX-YYYY 千代田区お茶の水1-1-1)

Design Division, Sekkei Seizu Ltd.
Email: ****@SS.co.jp

3. 式の書き方

Table 2 Table caption.

--

[1行以上空ける]

参考文献

- 1) 設計太郎, 製図次郎 : C A D設計論, 設計工学, 28, 13 (1995), 563. [和文雑誌の例]
- 2) Jones, P., Young, T. and Thomson, G.: Analysis and Design of a New Bearing, J. Machine Element, 43, 13 (1992), 145. [英文雑誌の例]
- 3) 設計花子: 機械設計の理論と応用, 新関東書籍 (1990), 236. [和文書籍の例]
- 4) Douglas, A.E. : Introduction of Mechanical Design, New York Pub. Co. (1993), 53. [英文書籍の例]
-
- 10) 日本設計工学会 編 : 設計の原理, NPC 出版 (1994), 123. [和文書籍 (編集) の例]

[1行以上空ける]

註

- 註 1)

